

「メディカル クオリティ・アシュアランス

判例にみる医療水準

慶應義塾大学医学部外科・弁護士 古川 俊治 著

千葉大学医学部第2外科

落 合 武 徳

本書はこれから医療を始める研修医、第一線の医療に携わっておられる大病院の医師から開業医の先生方を始め、大学病院で先端医療と同時に医学教育に携わっているわれわれも含めて、つまり医師として医療に従事しているすべての方々に読むことをお勧めしたい貴重な書である。著者の古川俊治氏は1987年に慶應義塾大学医学部を卒業した後、文学部(1993年)、法学部(1996年)も卒業し、司法試験に合格して弁護士資格を取得されている。現在、慶応大学の消化器外科で腹腔鏡手術やロボット手術などの先進的な医療に取り組むかたわら、弁護士としても活躍しておられる。2000年4月に開催された第100回日本外科学会総会において、北島政樹会長は慶応病院と川崎市立病院を結んでtele-surgeryによる遠隔地医療を実践してわれわれを感嘆させたが、古川氏はその法的問題について詳細に解説された。外科医にして弁護士であるという日本では希有で貴重な存在である。

現在、連日のようにマスコミは医療ミスを報じている。そのようなミスを防止するために各病院ではヒヤリハットレポートなどを作成して、

業務管理の上からリスクマネジメントに力を入れている。それと同時に、医事紛争を避けるためには日々進歩を続ける医療において、現時点の水準にかなった医療を提供することが重要で、これが本書のタイトルであるクオリティ・アシュアランスの概念である。アメリカではリスクマネジメントとクオリティ・アシュアランスは重視されていて、各州の医師資格更新のための講習会には10%含まれることになっているという。

本書は医事訴訟になった約900例の個々のケースについて、内科、外科、整形外科、救急医療など、ほとんどすべての科にわたって専門別に事例を紹介し、裁判所の見解(判決)がわかりやすく解説されている。しかし、本書の特徴的な点は、判決当時はそういうことであったが、現在では医療の発達や医療内容の変化によってどういうふうに判断されるだろうかとか、あるいはこの事例では医師はどのような医療措置をすべきであったかなど、著者の医学的なバックグラウンドに基づいた医療上のアドバイスが述べられていることである。それによって本書は単に医療過誤のケースを紹介し、法的に解説

するにとどまるのではなく、実地医療の教科書的な側面を兼ね備えることになっており、それが本書を貴重なものにし、われわれが読んでおもしろいと感じる由縁である。本書によって、医事訴訟にならないためには現在の医療水準をよくわきまえておく必要があることが理解される。乳癌において乳房温存手術が行われ始めたばかりの時期においてさえ乳房温存手術をしなかったために敗訴したケースにみられるように、まだ一部の先進的な医療機関でしか行われていないような治療法ないし治療概念も念頭に入れて日常の医療を行わなければならないことが述べられている。これらの記述を読むと、医療に関与する者にとって医事訴訟に対する対策として、日々の研鑽によって医療水準を高めることの必要性が実感される。この点が本書をすべての医師にとっての必読の書としている。

● A5 頁432 図9 表28 2000
定価(本体4,000円+税) 円400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)